

Shalom-network

発行 NPO法人シャローム事務局 〒960-1241 福島県福島市松川町字東原17-3
TEL/FAX024-567-5322
http://nposhalom.net/ info@nposhalom.net 発行責任者 大竹静子

震災と原発災害への対応の ため定款変更認証申請中！

となります。
3月11日を境
に災害支援活動
は始まりました。
支援物資の手配、

シャロームの定時総会は、5月28日開催され、本年度の議案は全て承認されました。第1号議案 平成22年度事業報告及び収支決算報告

第2号議案 平成23年度事業計画及び収支予算

第3号議案 定款変更について

第4号議案 役員改選について

以上の4議案が審議されました。今期は役員の改選時期となつていますが、全員がそのまま継続して留任することとなりました。現執行部で事業を行つていきま

すのでよろしくお願いいたします。
今回の特徴として、定款変更の件が議題とされてい
ます。東日本大震災の後、
これまででは定款に含まれて
いなかった災害支援活動が
大きな活動分野となつてい
ます。それは現在も進行中
で拡大していくことが予想
されます。これに対処する

ため今回の改正を行いました。特定非営利活動の種類として次の6項目を追加いたしました。環境の保全を図る活動、災害救援活動、地域安全活動、国際協力の活動、男女共生
参加社会の形成の促進を図る活動、経済活動の活性化を図る活動。

これによりこれまでの項目 保健、医療又は福祉の増進を図る活動、社会教育の推進を図る活動、まちづくりの推進を図る活動、学術、文化、芸術又はスポーツの振興をはかる活動、子どもの健全育成を図る活動、人権の擁護又は平和の推進を図る活動、前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動、これらを加えると現在活動している全てが網羅されること



た放射能汚染のまっただ中にあります。放射能汚染については、日に日に汚染の実態が明らかとなり、その事故の大きさに驚かされます。土壌の汚染状況が明らかとなり、内部被爆の問題が具体化してきています。これからは、健康被害とともに経済活動も急速に制限されていきます。私たちの地域を自らの手で守つていくための活動が益々重要となつていきます。みんなで手を携えながらこの難局を乗り越えて行きましよう。

代表 大竹 静子

愛のメモ帳

スカイパークには、市民の手作りでつくる航空公園のシンボルモニュメントとして「蒼龍」という大きな自然石を使って製作された石の彫刻が置かれている。20個の自然石に毎年毎年新たなレリーフを彫り込んでいく。その作業が今年で5回目を迎える。この作品は「未完成の完成」であることに大きな意味を感じている。市民の手作りで作られていく航空公園もまた「未完成の完成」の作品と言える。市民が自分たちに取つて必要なものであること、作り上げていくべき目的を感じることに、そして、それを次の世代に引き継いでいくべき質をもつこと、それが限りの場所はより良いものに進化しながら常に変化し続けていく。私たちが毎年毎年彫り続ける一本の線、それはスカイパークとともに石に刻まれた記憶として引き継がれていく悠久の未来へのメッセージだと考えると大きな仕事に関わっていることか。これからも楽しみながら続いていくことを願う。

(T.O)

シャロームと共に活動する NPO・市民団体の皆さん

飛躍28来福

6月28日、PTSD

S Dの講座を私たちシャロームスタッフに教えてくれるため、飛躍28の石川さんが来福した。

前回はタイからの支援物資や、子供たちのためのぬいぐるみを持って、数日間の短い期間

に南三陸町や仙台市、飯館村と被災地に積極的に足を運び、すごい行動力の団体だとの印象だった。石川さんと行動を共にしているジヨ



シユさんというアメリカ人宣教師さんが、阪神大震災時にも支援活動に携わり、主に、心のケアであるPTSD（被災者のトラウマを軽減するためのケア）を行っている経験者ということ、今回の震災でもその必要性を強く感じていたようだ。岩手・宮城・福島被災地もすでに時間が4ヶ月以上たちつつあり、物資面の支援もさることながら、そろそろ、

精神面でのサポートが必要になってくる段階である。シャロームでもサポート方針の切り替えの時期にさしかかっていたので、今回のPTSDの講座は的確なタイミングだったように思う。被災者の状況も様々であり、みんな心に傷を負っている。その人たちに少しでも寄り添うことが出来ればと思う。

ふくふく会議 起動

震災をきっかけに東北のNPOが終結し、ネットワークセンターの星野教授を中心に「ふくしまNPO・市民活動団体連携復興プロジェクト」通称「ふくふく会議」が立ち上がった。今後の福島県の復興のために自分たちは何が出来るのかそれぞれが模索を始めた。シャロームは被災者支援部会に属しており、行政との連携や現地での直接支援等の今までの経験を生かし、引き

続き活動を行っている。今後は支援のステージも一次避難所から仮設住宅に移行し、さらなる長期的な様々な形の支援が必要となってくる。その中で、シャローム単体ではできない事業もいくつかの団体で分担すれば可能になることも沢山あるはずである。こんなときだからこそ、みんなで力を合わせて前に進むことができるよう連携が出来ていければと心から願う。

飯館村と梅ドミ

飯館村は早くから食料等の支援を始めた町村の一つだが、今になってさらに踏み込んだ支援活動に発展し始めている。広島の「ジユノの会」さんからいただいた「梅ドミ」を自分たちの食生活の中に積極的に取り込み、少しでも内部被爆を少な

くしようと一生懸命取り組んでいる世帯がどんどん増えている。二次避難所になっている「プルミエール箕輪」では現在約百人の飯館村村民が避難生活をしているが、ほぼ全戸で積極的に「梅ドミ」に取り組んでいる。飯館村の人たちの意識の高さには心を打たれる。また、仮設住宅に移った皆さんにも自治組織



を通し、徐々に届けることができるようになる。ことさら線量の高い地域に住んでおられた皆さんなので、除染については他の地域とは比較にならないほど真剣に取り組んでいる。一日も早く原発建屋の囲い込みが終わり、空気中への放射線垂れ流し状態が終息するよう心から願う。ふるさとを、家を、職を未来を奪われた人々が、福島には大勢居いる。

(佐々木)



第88回「マンガ家の見た現代の世相」
講師：やまひろしさん

平成23年4月23日の土曜日に開催の予定をしていた教養講座「第88回地元学を考える」は、当日に強い雨が降り、原発事故の影響も考え順延され1週間後の30日に開催されました。当日は晴れて絶好の地元学日和となりました。今回の地元学の講師には日本漫画家協会東北支部長でいらっしゃるマンガ家のやまひろしさんをお呼びし、「マンガ家の見た現代の世相」という題で講演していただきました。ところどころにユーモアを交えて語っていたいただき、笑いのある楽しい講演となりました。

教養講座「地元学」を考える

痛み妬みなどを知る人がマンガ家や、色んなことができ。何が起きるか、わからない世の中、全て笑いに変え強く生きて行くことが大事だとやまさんは言います。同時にあまり頑張らないことも大事だそうです。「頭を使って、悪いように考えないで、ぼーっと生きる」といいます。力を抜いて、気楽に生きるヒントをもらえたような気がします。楽しい講演でした。

平成23年5月21日の地元学では、講師に元福島県職員で退職後は福島県商工会連合会専務理事や県庁自然植物研究会長などを務めた猪股浩二さんをお招きし、「全国に誇れる福島市の史跡」という題で講演をしていただきました。講演でははじめに、赤穂浪

第89回「全国に誇れる福島市の史跡」
講師：猪股浩二さん

士で有名な赤穂事件と福島県とのかわりについて話していただきました。本件との意外なかわりが解って興味深かったです。その後、著大な文化財の影に隠れた名高い史跡である岩谷観音の磨崖仏や文知摺観音の文知摺石、安洞院多宝塔について解説していただきました。近場



にありながら、なかなか落とすれる機会のないこれらの史跡について知ることができ、勉強になった今回の地元学でした。

第90回「今できること、必要なこと」放射能から身を守るために
講師：振津かつみさん

地を訪問して被災地支援と交流ボランティア活動を行なっている振津かつみさんを講師にお招きして講演をしていただきました。講師には「今できること・必要なこと」という題で講演していただき、原発事故被災地であるここ福島で放射能から身を守るために必要なことを教えていただきました。

講演ではまずチェルノブイリ原発事故発生当時の様子から現在までについて紹介していただきました。現在の福島と被曝とすることも多く、身につまされる内容でした。その後福島現在の汚染の状況などに話は及び、その危険性と対策についてお話いただきました。一般的に放射

線量の高いであろう側溝や雨樋の水が地面に直接流れているところなどには近づかないこと、体に放射性物質を取り込まないようにマスクをするなど具体的な放射線対策の話に加えて、行政からの支援の必要性等も話をされました。

今回のお話は、福島第一原発の事故からの影響が強い福島に住む私たちにとって直接関わってくる内容で、講演で伺った内容を実践していきたいと強く思いました。
 (以上文責玉川)

仮設住宅の環境アセスメント始まる

ふくふく会議の被災者支援部会で提案された「仮設住宅の環境アセスメント調査」を始めました。我々の担当地域は、福島市の一部、旧飯野町地区、本宮市、大玉村、二本松市である。早速、飯野地区で行って見た。飯野町出身の支援者にご協力いただき、仮設住宅を起点に、生活に必要な商店、飲食店、学校等がどれくらいの距離で行くことが出来るのか実測し、また、その結果を地図に落とし込む。目指



活動報告

- 4月30日 第88回地元学
「マンガ家が見た現代世相」30名
講師 ややまひろし さん
- 5月21日 第89回地元学
「全国に誇れる福島市の史跡」34名
講師 猪股浩二 さん
- 5月28日 平成23年度シャローム定期総会
5月30日～6月17日 福島市立養護学校インター
ンシップ(1名)
- 6月6～10日 大笹生養護学校インター
ンシップ(1名)
- 6月8～10日 商工会技能講習生(1名)
6月9日 県立盲学校見学・体験
(生徒3、教師3)
- 6月14日 梅・ド・み届け
(飯館村避難所箕輪、80世帯180名)(3名)
- 6月14～15日 商工会技能講習生(1名)
- 6月15日 門前市
- 6月18日 第90回地元学
「今できること・必要なこと」70名
-放射線から身をまもるために-
講師 兵庫医科大学 振津かつみさん
- 6月20～7月8日 福大付属養護インターンシッ
プ(1名)
- 6月20～24日 商工会技能講習生(1名)
- 6月26日 「グッバイ原発」参加
「梅・ド・みサロン」
PTSD講座 NPO法人飛躍28交流
- 6月28日 本町町内会総会(店長出席)
- 7月9日 映像研究会議
- 7月11～15日 第二中学校職場体験
- 7月12日 梅・ド・み届け
(飯館村避難所箕輪、50世帯150名)(3名)
- 7月16・18日 石彫りワーク(スカイパーク)

活動予定

- 7月23日 第91回地元学
「仏画、布がたり体験」
講師 海老沢東山さん(仏画)
海老沢朋水さん(写経)
- 7月23～25日 仏画、布がたり展示会
- 8月20日 県北NPO復興会議夏祭り
- 8月27日 第92回地元学
講師ジュノーの会 甲斐等氏
- 9月24日 涼風コンサート
インド古楽器シタール演奏

「地元学を考える」のご案内

第91回「仏画、布がたり体験」

- 講師 海老沢東山さん(仏画)
海老沢朋水さん(写経)
- <日時>平成23年7月23日(土)13:30～15:00
- <場所>まちなか夢工房 2階 オアシス広場
- <参加費>500円(飲み物代込)
- <持参品>仏画コース:面相筆 書道具
写経コース:写経筆又小筆又ボールペン

事前にお申し込みがあれば手話通訳をご用意
することも可能です。

仏画と布がたり作品展併せてご覧ください
(23日～25日)同会場にて

全国からのご支援感謝いたします

3月11日以降、私たちの生活は一変しました。私たち自身も原
発被害者です。前号(4月30日)に全国からの支援者の方々を
ご紹介させていただきましたが、その後も支援を続けてくだ
さっておられる方々がおられます。心から感謝申し上げます。

ジュノーの会 甲斐等様と仲間の皆さま(広島県)

「梅どみ」(梅干、ドクダミ、味噌)を中心に、人参やたま
ねぎなどの野菜、そして入浴剤や漢方貼剤を。青海苔やゴマ
も良いという情報と共に物資もいただいています。夢工房店内
「梅どみ」コーナーで配布し、各種行事に参加し「梅どみ」
サロンを開き配布したり、現在飯館村からの避難の方々を中
心に配布中です。

ジュノーの会ブログ <http://junodnokai.blog39.fc2.com/>

帰農志塾 戸松正様と仲間の皆さま(茨城県)

毎週、畑から直送の新鮮な野菜を届けていただいています。
シャロームの仲間のみなさん、夢工房のスタッフやUDセンタ
ーの仲間たちと家族でいただき、時には夢工房の店頭置き、
来店者に食べていただいたりもしています。

山崎万里さんと枚方・食品公害と健康を考える会の皆
さま(大阪府)

山崎万里さんとその仲間の皆さまが、私たちが、今必要とし
ていることの手助けにと、体内代謝と排毒を助けるドクダミ
茶や野草茶の原料になるスギナを採取し、乾燥から仕上げま
での手作り品を送っていただきました。甘い香りや緑色を残
したきれいなスギナ茶でした。次はドクダミの採取から乾燥
と準備に入っておられるとのお手紙をいただきました。私た
ちはティーパックにし、「梅どみ」サロンで利用中。

サハジバザール 竹島修さん(茨城県)

ハーブや新鮮な野菜を送っていただきました。

塙克子さん(茨城県)

障がいをもつお兄さんと共につくったカブや人参を送って
いただきました。

前川裕美さん(兵庫県)

網膜色素変性症にて視力を失いつつもピアノでの弾き語りに
て全国公演。昨年シャローム主催の「共に生きる仲間たちの
コンサート」にゲスト出演。今年3月12日「彦ハウス」(大玉
村)でのコンサートを計画中に災害が……。6月4日、支援
のコンサートを開いていただきました。阪神淡路での被災経
験と視力を失う中で、前向きな生き方や考え方に勇気と希望
を届けていただきました。

日本は本来、正義の心、道徳心等「性善説」にたっている。しかし日赤の支援物資が大量にオークションに
編集 流れたり、被災老人の賠償金を騙し取ろうとするフドキ者がいたり、心の貧しさを感じざる終えない。老人
後記 の賠償金を管理する家族に悪意がある場合、第三者は口をはさむ事が難しい。避難所で孤立した老人を守るす
べは無いものか。こんな時こそ地域のコミュニティが防波堤になれないだろうか。(M.S)